

# 令和元年度 第3四半期（2019年10月～12月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

## 1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=25 事業所(回答率 100%)

## 2. 調査対象期間

今期=2019年10月～12月

- ・前年同月比=前年同期(2018年10月～12月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2019年7月～9月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2020年1月～3月)の見通し

## 3. 調査期間 2019年12月12日～12月23日

## 4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が0より上の場合=景気は上向き

DI値が0の場合 =景気は横ばい

DI値が0より下の場合=景気は下向き

## 5. 調査項目ごとの状況

### (1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲27.8で、業種別にみると「卸売業」が0.2で最も高く、「小売業」が▲19.6で続いている。

先行きは4.1p悪化の▲31.9で、業種別では「製造業」「小売業」「サービス業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2019年 7～9月期 (今回調査)		2019年 10～12月期 (今回調査)		2020年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.4	↗	▲27.8	↘	▲31.9	↘
建設業	0.2	↗	▲39.8	↘	▲40.0	↘
製造業	▲40.0	↘	▲40.0	→	▲40.0	→
卸売業	0.2	→	0.2	→	▲20.0	↘
小売業	0.3	↗	▲19.6	↘	▲19.6	→
サービス業	▲20.0	↘	▲40.0	↘	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲20.0	↘	▲29.4	↘	▲27.8	↗
(参考)東北全産業	▲29.2	↘	▲33.7	↘	▲39.2	↘

※(参考)は日本商工会議所LOB調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

### (2) 売上高DI

売上高DIの現況判断は▲35.8で、業種別にみると「卸売業」が▲19.8で最も高く、「小売業」が▲39.6で続いている。

先行きは3.9p改善の▲31.9で、業種別では「建設業」「小売業」で改善し、その他の業種で減少となっている。

図表2 売上高DI

	2019年 7～9月期 (今回調査)		2019年 10～12月期 (今回調査)		2020年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲28.9	↘	▲35.8	↘	▲31.9	↗
建設業	▲19.6	↗	▲39.8	↘	▲20.0	↗
製造業	▲60.0	↘	▲39.8	↗	▲40.0	↘
卸売業	▲39.8	↘	▲19.8	↗	▲40.0	↘
小売業	0.3	→	▲39.6	↘	▲19.6	↗
サービス業	▲19.6	↘	▲39.8	↘	▲40.0	↘
(参考)全国全産業	▲11.4	↗	▲21.7	↘	▲22.8	↘

※(参考)は日本商工会議所LOB調査の値を参照

DI = (増加の回答割合) - (減少の回答割合)

### (3) 採算DI

採算DIの現況判断は▲23.8 で、業種別にみると「卸売業」が 0.2 で最も高く、「小売業」が▲19.6 で続いている。

先行きは 0.1p 悪化の▲23.9 で、業種別では「建設業」で改善し、「製造業」「卸売業」「サービス業」で悪化となっている。

図表3 採算DI

	2019年 7~9月期 (今回調査)		2019年 10~12月期 (今回調査)		2020年 1~3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.4	↗	▲23.8	↘	▲23.9	↘
建設業	0.0	↗	▲20.0	↘	0.0	↗
製造業	▲40.0	↘	▲39.8	↗	▲40.0	↘
卸売業	0.2	↗	0.2	→	0.0	↘
小売業	0.0	↗	▲19.6	↘	▲19.6	→
サービス業	▲19.8	↘	▲40.0	↘	▲60.0	↘
(参考)全国全産業	▲17.5	↗	▲23.3	↘	▲25.0	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

### (4) 資金繰りDI

資金繰りDIの現況判断は▲12.0 で、業種別にみると「卸売業」が 0.2 で最も高く、「小売業」「サービス業」が 0.0 で続いている。

先行きは 4.0p 悪化の▲16.0 で、業種別では「建設業」「製造業」「サービス業」で横ばい、「卸売業」「小売業」で悪化となっている。

図表4 資金繰りDI

	2019年 7~9月期 (今回調査)		2019年 10~12月期 (今回調査)		2020年 1~3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.4	↘	▲12.0	↗	▲16.0	↘
建設業	0.0	→	▲20.0	↘	▲20.0	→
製造業	▲40.0	↘	▲40.0	→	▲40.0	→
卸売業	▲19.8	→	0.2	↗	0.0	↘
小売業	0.0	→	0.0	→	▲20.0	↘
サービス業	0.2	→	0.0	↘	0.0	→
(参考)全国全産業	▲10.9	↘	▲13.6	↘	▲14.6	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

### (5) 仕入単価DI

資金繰りDIの現況判断は▲40.0で、業種別にみると「建設業」が0.0で最も高く、「卸売業」「サービス業」が▲40.0で続いている。

先行きは横ばいの▲40.0で、すべての業種で横ばいとなっている。

図表5 仕入単価DI

	2019年 7～9月期 (今回調査)		2019年 10～12月期 (今回調査)		2020年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲29.2	↗	▲40.0	↘	▲40.0	→
建設業	▲20.0	→	0.0	↗	0.0	→
製造業	▲40.0	↗	▲60.0	↘	▲60.0	→
卸売業	▲60.0	↗	▲40.0	↗	▲40.0	→
小売業	0.0	↗	▲60.0	↘	▲60.0	→
サービス業	▲20.0	→	▲40.0	↘	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲37.3	↗	▲36.2	↗	▲31.3	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

### (6) 従業員DI

従業員DIの現況判断は0.4で、前期からはほぼ横ばい。業種別にみると「卸売業」「小売業」でやや人手不足感が強まっている。

先行きは横ばいの0.4で、すべての業種で横ばいとなっている。

図表6 従業員DI

	2019年 7～9月期 (今回調査)		2019年 10～12月期 (今回調査)		2020年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	0.3	↗	0.4	↗	0.4	→
建設業	0.8	↗	0.6	↘	0.6	→
製造業	0.0	→	0.0	→	0.0	→
卸売業	0.2	→	0.4	↗	0.4	→
小売業	0.0	↘	0.2	↗	0.2	→
サービス業	0.6	↗	0.6	→	0.6	→
(参考)全国全産業	23.7	↗	23.1	↘	23.8	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

## 6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
若手を含め技術員の確保が難しくなっている。	建設業
少子高齢化となり、企業の支店・支所の削減、学校関係の統廃合が進んでいる。そのため昨年、小ロット化に対応した設備投資をした。最近その効果が表れてきている。	製造業
景気は停滞気味かなと思う。仕事はあるが、人手不足で受注できないという話を多数聞く。	サービス業
消費増税に伴いサービス料金も値上げしたが、客数減少により厳しい数字になっている。	サービス業